

文化プログラムで海外との交流深める

佐賀県は
タイ、フィンランド、
ニュージーランドの
ホストタウンです

文化の祭典としての側面も持つオリンピック・パラリンピック開催に向けて、全国で海外各国との文化交流を行うための「文化プログラム」が推進されています。佐賀県でも、ホストタウンとして事前キャンプの受け入れを予定しているタイ、フィンランド、ニュージーランドとの文化交流を行っています。絆を未来へ。佐賀県はこれからも、海外各国との交流を深めていきます。



ITDAタイ王国舞踊団によるタイ舞踊

講演会

フィンランドフェア

2020年12月12日(土)、13日(日)にアバンセ・どんどんの森で開催。埼玉県のムーミンバレーパークからムーミンが来場し大人気だった写真撮影会、フィンランド発祥のスポート「モルック」体験、伝統工芸品の「ヒンメリ」づくり、前回は続き大人気の料理教室などを開催。現地からコーラス&カンテレユニット「カルデミンミット」による映像出演もありました。

自分らしく生きる、男女平等、福祉、ワークライフバランス、フィンランドでは残業がほとんどなく、有給休暇は100%の消化が求められるなど、ワークライフバランスを重要視している。家庭労働時間を節約分担し、父親の8割が産休・育休を



マオリの伝統舞踊「ハカ」を解説する杉村佳彦さん

ニュージーランド文化トークショー

2021年1月17日(日)に、モラーージュ佐賀で開催。自然豊かな国で作られるマヌカハニーやオーガニック製品等の雑貨販売、旅する写真家・伊藤秀海さんによる現地の美しい風景写真の展示などを実施。また、トークショーを通じて伝統舞踊「ハカ」などの「マオリ文化」を学ぶことができ、ニュージーランドの文化に触れることができました。

ニュージーランド文化トークショー
Ka ora! マオリの文化を紹介します

マオリとは、イギリス人が入植する以前から住んでいたニュージーランドの先住民。現在のニュージーランドにおいても、マオリ語の一部は、「Kia ora」(キアオラ)にちなみ「意」な

マオリの文化は、日本で

ニュージーランドフェア

2021年1月17日(日)に、モラーージュ佐賀で開催。自然豊かな国で作られるマヌカハニーやオーガニック製品等の雑貨販売、旅する写真家・伊藤秀海さんによる現地の美しい風景写真の展示などを実施。また、トークショーを通じて伝統舞踊「ハカ」などの「マオリ文化」を学ぶことができ、ニュージーランドの文化に触れることができました。

ニュージーランド文化トークショー
Ka ora! マオリの文化を紹介します

マオリとは、イギリス人が入植する以前から住んでいたニュージーランドの先住民。現在のニュージーランドにおいても、マオリ語の一部は、「Kia ora」(キアオラ)にちなみ「意」な

マオリの文化は、日本で



宮崎大学多言語文化研究センター講師 杉村 佳彦さん
ニュージーランド在住歴11年。2015年に帰国し、現職。マオリ・ニュージーランドの文化多様性・多文化共生を研究。

食べ物を通じて文化を楽しんでもらうべく、本場ニュージーランド産のグルメの試食体験を行いました。熱々のラムチョップやニュージーランドで多くの人に愛されているホーキーパーキアアイス、キウイを提供。いずれも大人気で、「美味しい」という声が試食会場内のあちこちで聞こえていました。



ニュージーランド産グルメの試食体験が大人気!

世界大戦での敗戦後、フィンランドは一人ひとりが社会に貢献することが求められた。性別・年齢に関わりなく、各々の才能を伸ばし、良い仕事をするためには充実した余暇やプライベートが必要という意識が根付いた。フィンランドが3年連続で「幸福度ランキング世界第1位」となった背景である。

※国連が発表する世界各国の幸福度ランキング



フィンランド大使館報道文化担当参事官 レイツタ・プロンタカネンさん
フィンランド南部のハメーンリンナ生まれ。長年、危機管理の報道や広報に携わり2020年10月より現職。コピー、読書、美術鑑賞、サイクリングを愛し、サッカーと乗馬は長年の趣味。



カンテレ奏者・あらひろさんによるカンテレコンサート



民族楽器カンテレ
フィンランドの民族楽器の一つ、ツィター属に属する撥弦楽器の一種。5弦から40弦まで、用途に応じ、異なる数の弦が張られた楽器を使い分ける。

フィンランドのテント式サウナが登場!

どんどんの森でフィンランドのテント式サウナも体験いただきました。それほど熱くない温度でスモークやスチームを浴びるのがフィンランド流です。熱したサウナストーンに水をかけ蒸気を発生させる「ロウリュ」をフィンランドフェアでは有田焼のストーンと嬉野茶で実施。テント内いっばいにお茶の良い香りが広がりました。

タイフェスティバル in SAGA 2020

2020年10月24日(土)、25日(日)にころぎしのもり(県立図書館南側広場)で開催。2018年から佐賀県で開催しているタイフェスティバルも今回で4回目。定番のタイ舞踊やムエタイなどのステージをはじめ、話題のタイドラマや映画の紹介、タイ式マッサージ、タイ料理など、たっぷり「タイ」感できる2日間となりました。

タイ国政府観光庁トークショー

日本にないタイの習慣や文化。例えば、曜日によって色や神様が決まったり、タイの人は自分の生まれた曜日を把握して大事にしたり、また、頭を「精霊が宿る部位」として神聖視し、基本的に他人の頭に触れたりしない。こういった世界有数の仏教国らしい文化がある一方、白・青・シルバーといったカラフルな寺院や、イ

ペン祭りという火をつけた灯籠を空に飛ばすお祭り、外装が独特なカフェなど、思わず写真を撮りたくくなるような親しみやすさも同居している。コロナ禍以前の一昨年は、タイを訪れた日本人観光客は180万人のうち7割がリピーターであった。タイの多様性あふれる文化は、多くの人を惹きつけて止まない。



タイ国政府観光庁代表の富松 寛考さん
幼少期にタイで過ごしたことがきっかけでタイとの関りが深まる。現在は鳥栖市在住。タイ政府要人の九州訪問の際には公式通訳を務めた経験も。



トウクトウク走る!

東南アジアを中心に普及する三輪タクシー。タイでは「トウクトウク」と呼ばれ、バンコクなどの観光地によく目にします。そのトウクトウクがイベント期間中、佐賀市内エリアに出現。タイフェスティバルのころぎしのもり、佐賀さいこうフェスティバルの会場近く、佐賀城の門の間を無料運行しました。カラフルな外見からは想像もつかないスピードで走るのでもっともスリリング。停留所には多くの人が並び、大人から子どもまで大人気でした。

イベントや事業の広報に使用できます

beyond2020プログラムロゴマークを使用しませんか?

対象事業条件
①②を満たすもの

- ①日本文化の魅力を発信する事業・活動
- ②多様性・国際性に配慮した、以下のいずれかを含んだ事業・活動
 - 障がい者にとってのバリアを取り除く取組
 - 外国人にとっての言語の壁を取り除く取組

文化庁の文化情報ポータルサイト「Culture NIPPON」に事業掲載



Culture NIPPON

佐賀県ホームページに事業掲載



佐賀県ホームページ

申請方法

<https://www.saga-bunpro.jp>

お問い合わせ/文化・スポーツ交流局 文化課

TEL0952-25-7236 FAX0952-25-7179

✉ culture_art@pref.saga.lg.jp

